

中部様式1

平成30年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

## 日進市地域公共交通会議

平成19年10月2日設置

フィーダー系統 平成29年8月28日 確保維持計画策定

## 1)公共交通網形成計画に描かれた将来像

日進市地域公共交通網形成計画(平成27年4月策定)

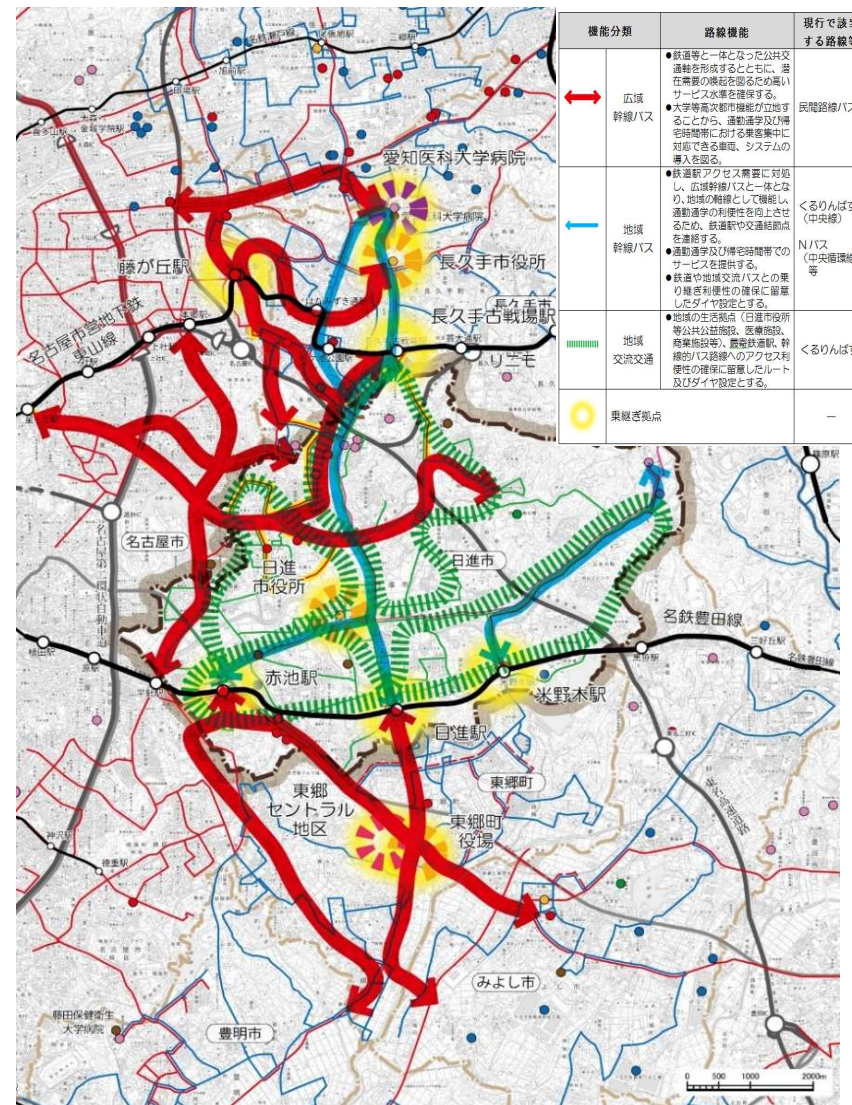
◎鉄道及び路線バスを公共交通軸とし、くるりんばすやタクシー等の交通機関が相互に連携することで、「公共交通を利用して、誰もが安心して出かけられる、交通環境が充実したまち」の形成を目指す。




## 2)日進市地域公共交通の基本方針

- 1 高齢化社会への対応として、誰もがわかりやすく、安全で利用しやすい公共交通とします。
- 2 移動ニーズへの対応として、周辺市町への移動がしやすい公共交ネットワークを形成します。
- 3 公共交通の利用促進として、魅力的な移動環境を創出します。
- 4 まちづくりとの一体化により、「いつまでも暮らしやすい みどりの住環境都市」の実現に向けた戦略的な公共交通体系を構築します。
- 5 多様な主体の連携により、持続可能な公共交通維持システムを構築します。

## 3)計画期間

平成27年度～平成32年度



実施事業	概要	実績等
リアルタイムバス情報の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バスロケーションシステムを導入インターネット上でのバスの位置情報の提供を開始。</li> <li>・市役所、図書館、市民交流会館に大型モニターを設置。建物内で安心してバスを待つことが出来る環境を整備。</li> </ul>	<p>運用開始及び記者発表 (H30.5)</p> 
<p>車両更新の実施</p> <p><b>フィーダー系統 公有民営方式車両購入費補助事業</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全で快適なバス運行の実現のため、老朽化した車両の更新を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩崎線に新型車両（日野ポンチョ）を導入 (H30.9)</li> </ul>
車両展示、乗車体験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民祭りの場において、新規購入したコミュニティバスの車両展示を実施。</li> <li>・運行事業者と協働で、子ども用制服を貸し出し、運転手体験を実施。</li> </ul>	<p>500名以上参加 (H30.11) 新型車両 (岩崎線) を展示</p> 
市民主体のコミュニティバス利用促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内小学校と連携し、コミュニティバスで出掛ける社会見学を実施。</li> <li>・高齢者団体による花見、工場見学などのコミュニティバスツアーを支援。</li> <li>・子供会等のコミュニティバスによる移動を支援。</li> </ul>	<p>相野山小3年生 30名が参加 (H30.9)</p> 

実施事業	概要	実績等
<p>メディアを活用したPR戦略</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報紙、新聞、YouTube（にっしんテレビ）、SNS（インスタグラム）、テレビ等、様々な媒体を使ったPR活動を展開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報紙にて「くるりんばすで巡る日進百十景」を連載（H29.6～H30.3）</li> <li>・にっしんテレビ（YouTube）でバスの便利な使い方特集番組を放映（H30.8）</li> <li>・名古屋外国語大と連携し、インスタグラムを用いたバスPR事業を展開（H30.7～）</li> </ul> <div data-bbox="1518 395 2033 686"> </div> <div data-bbox="1518 730 2033 1050"> </div>
<p>広域公共交通網形成に向けた検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・尾三地区の広域公共交通網の形成、乗り継ぎの向上に向けて、豊明市、日進市、みよし市、長久手市、東郷町で構成する協議会にて協議を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H30.3 尾三地区広域公共交通基礎調査報告書を作成。</li> <li>・上記調査結果を基に、事業者（名鉄バス）との意見交換会を実施。</li> <li>・名城大学の協力で、H30.12に豊明市、みよし市、長久手市、東郷町のコミュニティバスのオープンデータ化（GTFS形式）を実施。（日進市はH30.2に先行実施）広域交通圏のオープンデータ化が完了。</li> </ul>

実施事業	概要	実績等
<p>バス総合マップの情報を更新</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年度の確保維持改善事業で製作した、バス総合マップの内容を更新。市内公共施設の他、商業施設、病院等に配布。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作成部数 1 万部 (H30.9)</li> </ul> 
<p>フィードバックアンケートの実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>再編後の中間評価としてフィードバックアンケートを実施（現在、集計作業中）。</li> <li>効率を高めるため、市と名城大学との共同研究事業として実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>配布部数 3, 0 0 0 部 (H30.11配布)</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;"><b>地域公共交通に関する市民アンケート ご協力をお願い</b></p> <p>皆さまには、日ごろから日進市地域公共交通行政にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。</p> <p>日進市では平成29年4月に、市民の皆さまの移動を支えるコミュニティバス「くるりんバス」の全線再編を行いました。この度、この全線再編に対する中間評価を実施して、改善されたポイントを整理するとともに、課題や問題点の抽出を行いたいと思います。また、日頃のお出かけや公共交通に対するお考えもお聞かせいただけます。皆さまからのご回答やご意見が、今後の日進市の地域公共交通のあり方を変える契機となるかも知れません。</p> <p style="text-align: right;">回収いたしましたアンケート</p> </div> <p>(平成30年12月末現在：1002部(33%)回収)</p>

平成30年度地域公共交通再編推進事業補助事業

#### 【日進市地域公共交通網形成計画の評価の考え方】

- ・ネットワークの評価、検証は日進市地域公共交通会議で審議
- ・評価は「路線単位」「ネットワーク全体」の2つの視点に基づき総合的に評価
- ・改善策をP D C Aサイクルにより実施

※日進市では地域公共交通網形成計画を具体的実現するため、平成28年10月に日進市地域公共交通再編実施計画を策定。同計画内で具体的な事業の効果指標を設定している。

#### 再編実施計画に定める事業効果指標に対する評価・検証

##### ①公費負担額(国・県・市負担額)

再編前	再編後見込値(目標値)	実績値	結果
148,705千円	146,630千円	135,864千円	<b>達成</b>

##### ②収支率

再編前	再編後見込値(目標値)	実績値	結果
19.9%	26.2%	29.5%	<b>達成</b>

H30 再編路線収支率	収入	経費	(経費)-(収入)	収支率(収入÷経費)
くるりんばす7路線	23,685,100 円	149,809,154 円	126,124,054円	<b>15.8%</b>
日進中央線(名鉄バス)	33,242,696 円	42,983,522 円	9,740,826円	<b>77.3%</b>
計	56,927,796 円	192,792,676 円	135,864,880円	<b>29.5%</b>

#### 【考察】

- ・路線の重複解消等の効率化により、くるりんばす7路線の運行経費が約1,040万円減少。公費負担額の抑制が図られた。
- ・中央線の民営化による収入増加で収支率が向上。全体の収支率を大幅に押し上げた。

路線毎の事業効果に対する評価・検証

路線毎の事業効果(利用者数)

	路線名	再編前	再編後見込値(H32目標値)	実績値	達成率
幹線系統	日進中央線 (名鉄バス)	71千人	79千人	96,118人	122%
	梅森線	51千人	100千人	45,409人	45%
	五色園線	53千人	65千人	67,238人	103%
フィーダー系統	循環線	—	69千人	55,182人	80%
	赤池線	118千人	124千人	59,631人	48%
	米野木線	62千人	73千人	27,819人	38%
	三本木線	65千人	81千人	32,534人	40%
	岩崎線	47千人	58千人	33,534人	58%

くるりんばす7路線(日進中央線除く路線)の合計

再編前	再編後見込値(目標値)	実績値	達成率
433千人	570千人	321,349人	56%

【考察】

- ・民営化により運行時間の延長や増便が図られた結果、日進中央線は大幅な利用者増となった。
- ・長久手古戦場駅に接続する五色園線については好調に推移したが、他のくるりんばす6路線については再編前を下回る利用実績となった。特に市東部地域は路線数が減少した影響が大きく作用し、利用者数が減少した。

### 1 計画の達成状況から得られた課題と対応方針

#### 【課題】

**公費負担額・収支率の維持向上策を継続的に展開する必要がある**

公費負担額・収支率は、民営化による収益率の向上や路線の重複解消による効率化の結果、大きく向上した。一方で、人件費、ガソリン価格等の高騰により、来年度以降の経費増大は不可避な状況にある。

#### 【対応方針】

市民主体の利用促進事業への支援・協力を力を入れると共に、各種PR事業を展開し、利用者増による収益性の維持に努める。

#### 【課題】

**再編後の課題（利用者の減少理由等）の抽出と対応策の検討を開始する必要がある**

再編後の利用実績は路線毎に明暗が分かれているが、トータルでは15.9%（くるりんばすのみでは23.5%）の減少となっている。

#### 【対応方針】

フィードバック調査に基づいた分析を行い、課題を把握する。また、課題への対応として利用促進事業を実施する他、計画期間終了に向け、路線のあり方についての方向性の決定や行動プランの策定に着手する。

### 2 実施事業から得られた課題と対応方針

#### 【課題】

**バス総合マップは継続的な更新が必要である**

平成29年度の確保維持改善事業で製作したバス総合マップは、車内アンケート調査でも分かりやすいとの評価を得ている。一方で、多数の交通機関を掲載しているため、情報の劣化も早い。

#### 【対応方針】

小まめな情報収集を行い、継続的な更新を行うよう努める。また、印刷ロットを可能な限り抑え、ロスが生じないように注意する。

#### 【課題】

**バス情報の更なるオープン化を推進する必要がある**

今年度取り組んだバスロケーションシステムの導入やGTFS化は、幹線を中心に利用者の増加に寄与していると考えられる。

#### 【対応方針】

勉強会等を通じ、取り組みを他市町にも広めると共に、リアルタイムオープンデータの作成、活用に向けた研究を産・学・官共同で推進する。



平成30年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（経緯）

## 日進市地域公共交通活性化協議会

平成19年10月2日設置

フィーダー系統 平成29年8月28日 確保維持計画策定

直近の第三者評価委員会 における事業評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
再編した路線の周知とP R を図ることを期待する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広報紙、新聞、YouTube、SNS、テレビ等、メディア使ったP R活動を実施。</li> <li>・ 小学校と連携したコミュニティバス社会見学の実施、お祭りでの運転手体験会、高齢者向けコミュニティバスツアーの支援など、多数実施。</li> <li>・ バス総合マップの内容を更新し、市内各所で配布。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コミュニティバスを使ったイベントの実施、呼び掛け、支援を幅広く行うことにより、バスに乗っていただく機会を創造する。</li> <li>・ 市役所窓口に新たに導入される広告付き番号システムをバスのP Rに活用する。</li> </ul>
インターネットでの情報検索について、G T F S化を推進すると共に、近隣市町との連携により利便性の高い交通ネットワークの構築を期待する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 名城大学と共同で、愛知県内初となるバスデータのG T F S化を実施。</li> <li>・ 先行自治体としてセミナー、オープンデータアイデアソン等に参加。G T F Sの普及に努めた。</li> <li>・ 尾三地区広域公共交通推進協議会で協議し、G T F S化を4市1町（豊明市、日進市、長久手市、みよし市、東郷町）へと拡大した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開示データの更なる高度化を目指して、産・学・官連携で研究開発を進める。</li> <li>・ オープンデータ化についてのP Rを継続的に行う。</li> <li>・ 尾三地区広域公共交通推進協議会の会合を定期的実施する。</li> </ul>

### 1 バス情報のオープンデータ化と高度化を推進

#### G T F S

- 名城大学と共同で、愛知県内初となるコミュニティバスデータのG T F S化を実施。
- 尾三地区広域公共交通推進協議会で協議しG T F S化を4市1町（豊明市、日進市、長久手市、みよし市、東郷町）へと拡大。広域交通圏のG T F S化が実現した。

#### リアルタイムバス情報

- リアルタイムバスデータの開示を目指し、本市をフィールドとした実証実験を開始。
- 名城大学に対し、公共施設でのアンテナ設置やバスロケデータの提供等の支援を実施。

#### バス次世代バス停の開発

- 名城大学、愛知県、日進市その他、通信事業者、交通事業者、IT事業者、設備開発事業者などが一同に会し、本市をフィールドとした実証実験の研究結果を共有。次世代バス停の開発に向けた協議を複数回実施した。



開発協議の様子

### 2 再編路線のPRのため、メディア戦略とソフト事業を集中的に実施

#### メディア戦略

- ① 広報紙でくるりんばすの旅の連載企画を実施。
- ② YouTube（にっしんテレビ）で便利なバスの使い方動画を配信。
- ③ 名古屋外国語大学と連携しSNS（Instagram）でバス沿線お勧めスポットを配信。
- ④ G T F S化、バスロケ開始等を新聞発表。
- ⑤ 東海テレビ「くるりんばすの旅 in 日進市」の収録に全面協力。



広報紙の連載企画



ロケで頂いたサインを掲示

#### ソフト事業

- ① 市内小学校でコミュニティバスで出掛ける社会見学の実施。
- ② 市民まつりの場で、子ども向け運転士体験会。
- ③ 高齢者団体のくるりんばすを利用したツアー（花見、歴史施設見学、工場見学等）の支援。
- ④ 子供会などの年少者団体の各種ツアー（歴史施設見学、市民プールへの移動）の支援。